

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①国語科や算数科を中心とした個別最適な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末の活用や指導の個別化、特別支援的な視点を特に大切に研修及び実践提案をする。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員で共有する。その結果を踏まえ、実態に応じた指導、支援を行う。	①授業研究と研修会により、「個別最適な学び」について、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末の活用方法を研究することにより、より「個別最適な学び」になるように務めてきた。②横浜市学力・学習状況調査の結果から、本校の児童の伝える力が高めようとして、各学年で学習内容を分析しながら、日々の指導・支援に生かした。	B
豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他よさに気付き、認め合う心を育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④全校であいさつ運動を推進する。	①道徳の授業を通して、自己を見つめることができた。学習計画が学校行事に沿っていたので、自分ごととして見つめる姿があった。②効果的に校外学習を取り入れ、本物に出会うことで子どもたちは教科書からだけでは得られない、実感を伴った学習をすることができた。理科や総合的な学習で生き物の大切さや、環境を守っていく大切さを感じることができた。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④年間を通してクラス輪番で挨拶運動を実施した。少しずつ相手意識をもった自然な挨拶ができるようになってきた。	A
健やかな体	①前年度の反省を活かしながら、体育科カリキュラムの系統性を見直し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育読本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。③睡眠をとることの意義を伝え、睡眠を大切にしていけるような啓発活動をしていく。	①体育科カリキュラムは、6年間の系統を踏まえて単元配列等の調整を行った。運動場所が十分に確保できるように校庭・体育館の割振りを行った。体育読本に限らず、映像資料等を共有していく予定。②遊び方の実態を踏まえて、中体みの運動用具活用した遊びの提案をした。ボール投げをする機会を増やすために、新たにボールを追加した。遊ぶことへの興味関心を促すために、遊び方の紹介動画を全校周知した。③睡眠の大切さを長期休みのカードや学校保健委員会を通じて意識化を図った。	B
地域連携	コーディネーターを中心に構築してきた支援組織と、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動の発信し、学校と地域の連携を深める。②地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	①学校として学習支援ボランティアの体制を整えることができた。スクリーンを利用したボランティアの呼びかけ、地域コーディネーターとの連携がスムーズにできるようになった。来年度以降も積極的にボランティアと連携できるようにしていく。②懇話会が3月に開催される。	B
いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、児童の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生に対しては素早く対応をしていく。②いじめの捉え方や対応の仕方を職員間で共通認識して、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	①学校いじめ防止対策委員会を定期的に行うだけでなく、日頃から子どもたちの様子を職員間で共有されている。そのため、いじめにつながる前に指導、支援につなげることができた。いじめが発生した場合も保護者と連絡を取り合い、子どもへの支援につなげられた。②学年等で子どもへの気になるところを丁寧に見守ることで、問題が大きくなる前に対応できた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。	メンターチームで年間計画を立て、積極的な授業公開や意見交換を行い、主体的に研修を進めていた。若手教員は、話を聞いて学ぼうとしている。また、先輩教員も多くのことを伝えようとしている。打ち合わせ等で児童の共有の機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応ができた。	A
特別支援教育	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担任と担任が丁寧な情報共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるような環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に応じた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	①個別級と交流級の両担任や、取り出し担任と担任は日頃から丁寧な情報共有を行い、個に応じた指導、支援ができるよう取り組んできた。特別支援コーディネーターも適宜参加することで、安心して過ごせる学校づくりができた。②コーディネーターを中心に発達障害の特性等の問題行動をその都度取り上げ、学年研究会を中心に共通理解を図ることができるよう努力した。	B
人権教育	①あいさつの大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指す。	①あいさつ運動を年間を通して全クラス行うことで児童があいさつを意識して、自分から積極的に行うようになった。教職員もあいさつに対して高い意識をもって取り組んでいた。さらに日常的にあいさつを意識できるように声掛けしていく必要がある。②人権週間では各クラスで授業を行い、各学年の代表者が全校児童に発表したり特活部と協力して様々な取り組みをしたりすることで人権意識が高まった。	B
児童指導	①学年研究会・職員会議の中で定例化した児童理解の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタンダード」を基にした指導の確認をするともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。	①毎週の打ち合わせなど定例化されたものはもちろん、それだけでなく日頃から児童についての情報共有を行うことができた。ただ、何を伝えるかについての基準がはっきりしていない。また、目的をはっきりさせる必要がある。②スタンダードの中にタブレットの項目を作ったことで、安心してタブレットを使用することができた。さらに学校全体で統一して指導できるよう、共通理解を図る必要がある。	B
豊かな心	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、たてわり委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	①委員会の児童を中心に、継続的に活動を進めることができた。たてわり活動は異学年の交流として一定の成果があった。②各園と話し合せて年間交流の計画を立て、無理なく実施することができた。	B
ブロック内評価後の気づき	小中の連携を深めるために、中学校、小学校で授業参観を行うことができた。その後の交流会において、それぞれの実態の把握と学習状況について情報交換を行った。小中合同ボランティア、職業体験を行うことで、児童生徒の交流を増やすことができた。人権研修で色々な立場の方の話を伺い、視点を広げることができた。今後、人権研修のテーマを増やして、児童理解を深めるための講演内容の検討を進めていきたい。人権の取り組みで、あいさつポスターを作成し、あいさつへの意識を高めている。来年度、あいさつ運動の交流を進めていく予定である。自分づくりパスポートの活用と保護者への伝え方について、よりよい活動になるようにブロックで情報交換をして検討していく。		
学校関係者評価	タブレット端末などICT機器が授業の中で自然に活用されている。1年生の児童もタブレットを使って学習を進めていた。この3年間で学習の進め方が大きく変わったことを感じる。教師の一斉授業ではなく、グループ学習など子どもたちが主体となって学習する授業がある。子どもたちが司会をし、子ども同士で意見を言い合ったり、教え合ったりする姿があつてもよい。人権週間の活動が、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	タブレット端末などICT機器が授業の中で自然に活用されている。1年生の児童もタブレットを使って学習を進めていた。この3年間で学習の進め方が大きく変わったことを感じる。教師の一斉授業ではなく、グループ学習など子どもたちが主体となって学習する授業がある。子どもたちが司会をし、子ども同士で意見を言い合ったり、教え合ったりする姿があつてもよい。人権週間の活動が、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	
中期取組目標振り返り	「自分らしさを発揮できる学校づくり」をテーマに掲げながら、一人ひとりが活躍し、自己肯定感を高めていく中で、自信をもって学ぶことができるよう日々の授業、学校行事、地域行事を計画し、運営してきた。また、重点研では、「個別最適な学び」についての理解を深め、個に応じた学習を意図した授業づくりを行ってきた。しかしながら基礎・基本の定着については今後も課題であり、本校の強みであるタブレット端末を活用しながら、引き続き基礎・基本の定着に努めていく。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①算数科を中心とした個別最適な学びと協働的な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。GIGA端末・AIDRILの活用や指導の個別化、特別支援的な視点を特に大切に研修及び実践提案をする。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員で共有する。その結果を踏まえ、実態に応じた指導、支援を行う。	①授業研究と研修会により、「個別最適な学びと協働的な学び」について理解を深め、個に応じた学習を意図した授業づくりを行ってきた。AIDRILを活用し、より「個別最適な学び」になるよう務めてきた。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、成果や課題を職員で共有した。本校児童の「主体的に他者と関わる力」が高まるよう、研究したことを、各学年で、日々の指導・支援に生かした。	A
豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他よさに気付き、認め合う心を育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④全校・中学校ブロックであいさつ運動を推進する。	①校内道徳研修を通して、職員は道徳授業づくりの理解を深めた。道徳の授業の中で、友達との語り合いを通して多面的・多角的に考える姿が見られた。②校外学習を効果的に取り入れ、教科書から得られない、実感を伴った学習をすることができた。理科や総合的な学習で生き物の大切さや、環境を守っていく大切さを感じることができた。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④全校・中学校ブロックであいさつ運動を推進する。	A
健やかな体	①小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育読本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。	①本校の児童の体力が市の平均よりも大きく高い。カリキュラムを工夫し、運動量の確保がされている。ICT支援員さんに依頼して、器械運動のお手本動画をクラウド上にまとめてもらった。②運動委員会の取組はよかった。ランニングクラブに中学の陸上部の生徒が来て、一緒に練習してくれた。日々の体育学習を通じ、運動の楽しさを味わうことができる。	A
地域連携	コーディネーターを中心に、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。②活動の発信し、学校と地域の連携を深める。③地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	①学習支援ボランティアの体制が軌道に乗り、スクリーンを利用したボランティアの呼びかけ、地域コーディネーターとの連携がスムーズにでき、子どもたちの支援につながった。②HPを通して活動を発信することができた。③懇話会が開催されるようになり、地域と連携した活動ができた。	B
いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、児童の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生に対しては素早く対応をしていく。②いじめの捉え方や対応の仕方を職員間で共通認識して、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	①学校いじめ防止対策委員会では、いじめと特別支援の一体化を意識し、組織的に行った。特別支援の視点から子どもへの成長へとつなげ、再発防止につなげた。②聞き取りの仕方について研修を行った。③打ち合わせのときだけでなく、日頃から職員間の共有から、いじめにつながる前に指導、支援につなげることができた。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。②打ち合わせ等で児童の共有の機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応を行う。③授業公開後に、アドバイス・意見交換を行う。	メンターチームで年間計画を立て、積極的な授業公開や意見交換を行い、主体的に研修を進めていた。打ち合わせ等で児童の共有の機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応ができた。授業公開後は、主体的に意見交換を行うことができた。	A
特別支援教育	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担任と担任が丁寧な情報共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるような環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に応じた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	①個別級と交流級の両担任や、取り出し担任と担任は日頃から丁寧な情報共有を行い、個に応じた指導、支援ができるよう取り組んできた。特別支援コーディネーターも適宜参加することで、安心して過ごせる学校づくりができた。②コーディネーターを中心に発達障害の特性等の問題行動をその都度取り上げ、学年研究会を中心に共通理解を図り支援や指導に生かした。	B
人権教育	①あいさつの大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指す。	①中学校ブロックで「あいさつ」の大切さを広め、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指す。②人権週間では各クラスで授業を行い、各学年の代表者が全校児童に発表したり特活部と協力して様々な取り組みをしたりすることで人権意識が高まった。	B
児童指導	①学年研究会・職員会議の中で定例化した児童理解の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタンダード」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。③タブレットを安心して使用できるように、使用ルールの共通化を行う。	①毎週の打ち合わせなどが定例化され、日頃から情報共有を行うことができた。コロナ明けで地域からの情報が増えた。②スタンダードに書いてある指導が徹底できていないところもあったが、学校内のトラブルは少なかった。今後、スタンダードを達成できるように目指しつつも柔軟な運用ができるようにしたい。③学校でのタブレットの使い方は概ね定着してきた。一方で、個人で持っているスマートフォンによるLINEトラブルに報告が上がり、可能な範囲で対応している。	B
豊かな心	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、ななよし活動リーダー委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、ななよし活動リーダー委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	B
ブロック内評価後の気づき	授業力向上を目指して、小学校と中学校の職員同士で、互いに学校の様子を見合ったり、情報交換をしたりする機会や、児童と生徒が交流する機会を、予定通り実行することができた。これらを通して、元気よく相手や場に応じたあいさつができる子どもが増えてきていることや、主体的に学習に取り組む子どもの姿が確認できた。小学校と中学校のつながりを大切に、子どもが不安を感じたり、困ったりすることがないようにすることを念頭に、職員同士のより活発な意見交換や情報交換がなされ、共有されていくことが必要であると感じた。		
学校関係者評価	コロナ禍が収束し、これまでよりも地域行事が活発になってきたことで、学校と地域がさらに連携を密にし、情報共有をしていく必要が出てきた。学校・保護者・地域が共に子どもを育てる「学校運営協議会」はとても意義のあるものであり、次年度以降も三者の協働関係を継続していく。重点取組分野における評価については、職員と保護者間で年チャットが生じている項目については、学校側が積極的に取り組む発信し、両者の認識の違いを埋めていく必要がある。【学力について】できる子とできない子の差を縮めていくと同時に、できる子をさらに伸ばしていくために何ができるかを引き続き考えていくことを確認した。(つまずいている子の早期発見と支援・習熟度別授業の実施・AI学習ドリルの活用・個別最適な学びの推進等)【人権教育推進】「性教育」「情報モラル教育」などは、外部講師を招くなどして児童生徒と大人がともに学ぶ機会を設けることで深めていきたい。		
中期取組目標振り返り	「自分らしさを発揮できる学校づくり」をテーマに掲げながら、一人ひとりが活躍し、自己肯定感を高めていく中で、自信をもって学ぶことができるよう日々の授業、学校行事、地域行事を計画し、運営してきた。学力向上に関しては、「個別最適な学びと協働的な学び」に焦点をあて、学習の流れや場の設定を工夫し、誰一人取り残さない授業デザインについて研究を行った。特に算数科において、子ども同士が学び合える時間を大切に、児童が安心して考えを広げたり深めたりできるような支援を行ったことで、子どもたちが学習の楽しさを実感し、進んで学習に取り組む姿を見ることができた。体力向上に関しては、カリキュラムを工夫し、運動量の確保をしたり、特別ランニングクラブの設置、学校の外周ランニングコースに活用したりするなどのアプローチの効果もあり、本校の児童の体力が市の平均よりも大きく高いという結果を得た。今後は体力の向上を自己肯定感の向上に結びつけることができるような取組を実施していきたい。どの子も安心して過ごせる居場所づくりについては、空き教室を活用して少しずつ整備を進めていく。場所だけでなく、支援体制をいかに構築していくかについて、次年度以降考えていきたい。		

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①算数科を中心とした個別最適な学びと協働的な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。特に、本校児童の課題である式・関数・空間図形について、AIDRILやデジタル教科書の活用も取り入れながら研修及び実践提案をする。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員で共有する。その結果を踏まえ、実態に応じた指導、支援を行う。	①算数科を中心とした個別最適な学びと協働的な学びについて、授業研究と協議会を通して教師の指導力を高める。特に、本校児童の課題である式・関数・空間図形について、AIDRILやデジタル教科書の活用も取り入れながら研修及び実践提案をする。②横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、職員で共有する。その結果を踏まえ、実態に応じた指導、支援を行う。	
豊かな心	①道徳教育の充実を図り、自他よさに気付き、認め合う心を育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④全校であいさつ運動を推進する。	①道徳教育の充実を図り、自他よさに気付き、認め合う心を育てる。②本物に触れる体験的な活動を取り入れる。③読書タイムや読み聞かせ活動、また教科書教材と関連させて本を読む並行読書等の読書活動の充実を図る。④全校であいさつ運動を推進する。	
健やかな体	①前年度の反省を活かしながら、体育科カリキュラムの系統性を見直し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育読本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。③睡眠をとることの意義を伝え、睡眠を大切にしていけるような啓発活動をしていく。	①前年度の反省を活かしながら、体育科カリキュラムの系統性を見直し、小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。小学校6年間を通して、計画的に体力向上を図れるようにする。体育読本の動きを映像化したものを発信し、活用していく。②運動用具の環境整備と用具の活用した遊びの提案をし、日常的な体力アップを図り、運動を楽しむ心を育てる。③睡眠をとることの意義を伝え、睡眠を大切にしていけるような啓発活動をしていく。	
地域連携	コーディネーターを中心に構築してきた支援組織と共に、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動の発信し、学校と地域の連携を深める。②地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	①コーディネーターを中心に構築してきた支援組織と共に、学習支援ボランティアの募集や保護者との関わりを充実させ、豊かな学びを支援する。また活動の発信し、学校と地域の連携を深める。②地域の代表者との懇話会を通して地域での様子の情報を共有し、学習や指導に生かす。	
いじめへの対応	①学校いじめ防止基本方針に基づいて取り組みを行う。学校いじめ防止対策委員会を月一回以上定期的に、児童の様子を把握し未然防止に努め、いじめの発生に対しては素早く対応を組織的にしていく。②いじめの捉え方や対応の仕方を職員間で共通認識して、いじめにつながる行動に対応できるようにする。	①学校いじめ防止対策委員会では、いじめと特別支援の一体化を意識し、組織的に行った。特別支援の視点から子どもへの成長へとつなげ、再発防止につなげた。②聞き取りの仕方について研修を行った。③打ち合わせのときだけでなく、日頃から職員間の共有から、いじめにつながる前に指導、支援につなげることができた。	
人材育成・組織運営(働き方)	①メンターチーム研修を計画的に行い、互いに授業公開や意見交換の場を作り実践力を高める。②打ち合わせ等で児童の共有の機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応を行う。③授業公開後に、アドバイス・意見交換を行う。	メンターチームで年間計画を立て、積極的な授業公開や意見交換を行い、主体的に研修を進めていた。打ち合わせ等で児童の共有の機会をもち、支援が必要な児童に対してチームでの対応ができた。授業公開後は、主体的に意見交換を行うことができた。	
特別支援教育	①個別学級担任と交流級担任、特別支援教室担任と担任が丁寧な情報共有し、どの子も安心して学習したり学校生活を送ったりできるような環境を整える。場合によっては、特別支援コーディネーターも交え、その子に応じた指導や支援の方法について学び合っていく。②発達障害の特性等についての理解を深め、全職員で共通理解をし、指導に生かす。	①個別級と交流級の両担任や、取り出し担任と担任は日頃から丁寧な情報共有を行い、個に応じた指導、支援ができるよう取り組んできた。特別支援コーディネーターも適宜参加することで、安心して過ごせる学校づくりができた。②コーディネーターを中心に発達障害の特性等の問題行動をその都度取り上げ、学年研究会を中心に共通理解を図り支援や指導に生かした。	
人権教育	①あいさつの大切さを知らせ、個々に課題をもって「あいさつ運動」に取り組むよう働きかける。②人権週間や学年ごとに人権を考える授業を行い、「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指す。	①あいさつ運動を年間を通して全クラス行ったり小中連携合同あいさつ運動を行ったことで児童があいさつを意識して、自分から積極的に行うようになった。教職員もあいさつに対して高い意識をもって取り組んでいた。さらに日常的にあいさつを意識できるように声掛けしていく必要がある。②人権週間では各クラスで授業を行い、各学年の代表者が全校児童に発表したり特活部と協力して様々な取り組みをしたりすることで人権意識が高まった。	
児童指導	①学年研究会・職員会議の中で定例化した児童理解の場を設け、情報を共有し、問題を共通理解する。②「下野庭スタンダード」を基にした指導の確認をするとともに、児童の状況や支援策を共有し、指導に生かす。③タブレットを安心して使用できるように、使用ルールの共通化を行う。	①毎週の打ち合わせなどが定例化され、日頃から情報共有を行うことができた。コロナ明けで地域からの情報が増えた。②スタンダードに書いてある指導が徹底できていないところもあったが、学校内のトラブルは少なかった。今後、スタンダードを達成できるように目指しつつも柔軟な運用ができるようにしたい。③学校でのタブレットの使い方は概ね定着してきた。一方で、個人で持っているスマートフォンによるLINEトラブルに報告が上がり、可能な範囲で対応している。	
豊かな心	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、ななよし活動リーダー委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	①たてわり活動がめあてを意識した活動となるよう、ななよし活動リーダー委員会を中心に年間を通して計画的に行う。②幼保小交流では、グループで相談や話し合いをしながら、1年生と園児と一緒に楽しむ活動を計画し、園児に思いを寄せながら実践していく。	
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			